

CAMPUS NET

特集

私たちは変化を乗り越え、学び続ける



vol.39

MAY
2021

私たちは変化を乗り越え、 学び続ける

新型コロナウイルスの流行開始から1年が過ぎ、コロナ禍におけるオンライン講義や感染予防に配慮した対面授業など、新たな環境のもと私たちは学び続けています。今回は学生教育、保健医療職への地域貢献、そして国際貢献の3つの視点で特集を組みました。学生、教員、それぞれの立場から得た発見や工夫・感じている課題についてお届けします。

コロナ禍での学びの工夫

学部2年生

田中 愛莉さん
中村 玲菜さん



左が田中さん、右が中村さん

中村 2年生の1年間はほとんどの授業がリモートになり、最初はとまどいました。私はまわりに影響されやすいタイプで、友だちがいないとやる気が出なくて、集中力を維持するのに苦労しました。課題の提出なども全てオンラインになり、ちゃんと出せているか不安になったり、自分で管理することが増えました。でも、悪いことばかりではなくて、動画を保存してくれている授業もあり、後で見直して復習できて助かりました。また、私は通学に片道1時間ほどかかるので、その時間を有効に活用できたようにも思います。

田中 ZOOMでのオンライン授業が始まる前に、友だち同士でカメラや背景の設定など、準備をして臨みました。私も自宅が遠い方なので、これまで通学に使っていた時間を課題にあてたりできたのはよかったです。

中村 通学しているときより課題は多くて、勉強は大変でした。時間が余るということはなかったです。授業中ビデオはオフにしているので、先生もみんなの顔が見えなくて、寂しそうです。

田中 授業中、急にアてられたりするので、オンラインでも油断できません(笑)。わからないことがあるときは、授業の後に先生に1対1で質問したりしていました。

中村 私は質問することはあまりなくて、ほぼ自分で解決していたように思います。在宅看護の授業で、オンラインで患者さんとお話することがあったのですが、相手が高齢ということもあり、なかなか伝わらなかったり、話すタイミングがかぶったり、難しいところがありました。

田中 3年生では、現地での実習もあると思うのですが、これまでほとんど現場に出ないで少し不安です。

中村 高校生を対象にしたオンラインイベント「ガクフェス」では、田中さんと二人で看護大について説明しました。インタビューしたり、パワーポイントを作ったり、先生にアドバイスいただきながら、準備しました。

田中 ギリギリで準備しましたが、当日の高校生からの質問にも答えることができ、無事にやりとげました。去年はイベントもみんな中止になってしまいましたが、大学祭のかわりに開催したスポーツ大会に参加しました。感染対策をしっかりと行っての開催で、よいリフレッシュになりました。

中村 私はバンドをやっていて、大学祭で演奏するために、みんなすごく練習していたのに発表できなくて、残念でした。あと、田中さんも私も広報委員をやっていて、大学のWEBサイトで学生ブログを書いています。ぜひ、ご覧ください!

学部3年生

上村 美鈴さん
受川 美奈さん



左が上村さん、右が受川さん

上村 去年は春休みがのびて、新学期から急にリモート授業が始まりました。私はパソコンが得意ではなく、最初は「ZOOMって何?ダウンロードってどうすればいいの?」という状態。受川さんに教えてもらいながら取り組みました。今はだいぶ慣れましたが、となりに友だちがいるのが普通だったので、会えなくなったのは寂しい。画面越しの授業はこれまでどのギャップが大きいです。

受川 私はパソコンが得意な方でしたが、友だちでも苦手な子もいっぱいいました。私たちの学年はグループLINEでつながっていて、みんなで助け合って準備しました。つながったときは、「できた!」と喜びました。

上村 実習に向けて、各領域の看護展開をしていくのですが、リモート講義ばかりで対面で先生に質問できないのが辛かったです。はじめてリアルでグループワークができたときは本当に嬉しくて泣いてしまいました。直接話ができるありがたさを実感しました。今の時代、電話やメールでつながることはできますが、友だちに会える楽しさや会話できる安心感は何にも代えがたいものでした。

受川 リモート授業も慣れて要領がつかめてくると、何を解決すればよいか、だんだんわかってきました。メールで質問すれば、先生もすぐ返してくれますし、直接会えなくても、コミュニケーションがとれるようになりました。

上村 私はまわりに影響されて動くタイプなので、自分ひとりではやらなければならないリモート授業は苦手です。集中力が続かずイライラすることもありました。メールで質問することも苦手ですが、先生に聞いたことを共有してくれる友だちがいて助かりました。

実習ではほとんど病院に行けないグループもあったのですが、私はかなり行けた方です。多くの体験ができて病院にも患者さんにも感謝しています。特に出産の現場に立ち会えたことは大きな感動でした。

受川 病院実習と大学での実習の両方を体験して、それぞれのよさを感じました。学内では、先生が様々な事例を説明してくださり、時間をかけて学ぶことができました。病院では今は面会ができない病棟も多くて、患者さんも寂しい思いをしていることを知りました。看護をするだけではなく、人と人との関わりを大切にしていきたいと強く感じました。

上村 ご家族も患者さんに思うように会えず、状況を知ることができなくなっています。家族のケアもこれから大事になるのではないかと感じました。これまでと同じようにできないこともあります。学ぶことの大切さやありがたさを知るきっかけになったと思います。

学生ブログ「IPNU Club」はコチラから!



石川県立看護大学の取り組み

地域貢献

新型コロナウイルス感染症が流行する中で、看護系大学として、社会的使命を実感しています。学内での啓発活動は当然として、私たちが持っている知識や技術を地域社会にお返ししていかないといけないと考え、令和2年度に大きく5つの事業を行いました。



老年看護学分野 教授 川島 和代

1 クラスタ発生先への支援

流行のはじめに近隣の病院でのクラスターが発生した際には、石川県看護協会が支援に名乗りをあげたことに賛同し、本学も協力しました。卒業生も勤務しておりましたし、急に起こったことで、誰もが経験したことがない状況でいち早く行動することに努めました。

2 高齢者施設・障がい者施設職員向け感染予防動画の制作

集団発生しやすい施設内での感染予防を支援するため、石川県の委託を受けて動画教材を作りました。秋冬の流行に備えるため、猛暑の中、わずか2、3カ月で仕上げました。



3 住民向け感染予防動画の制作

地域住民向けに「今すぐできる！お家の中の感染予防策」と題した啓発動画を制作しました。根拠のある対策ができるように、感染症の専門の先生に監修いただきました。



4 冊子版「感染対策マニュアル」を制作

動画に続き、手元においていつでも参照できる冊子版の「高齢者施設・障がい者施設のための新型コロナウイルス感染対策マニュアル」を制作し、県内の施設へ配布しました。個人での感染予防対策についてはかなり普及してきていましたが、もしも施設内で感染者が出たときにどのような対策が必要かを具体的にまとめました。追加の要望にお応えするためにPDF版をWEBサイトに公開しています。



5 公開講座「こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア」の開催

動画や冊子にとどまらず、直接お話を聞きたいとの要望に応える形で公開講座を企画、会場（対面）とオンラインとのハイブリッドで開催しました。住民や施設でのケアに携わる方が安心して根拠のある対策を実施できることを目指しました。タイトルは石垣学長のアイデアで皆さんが興味を持ちやすいように「こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア」としました。学内外の専門家に講演いただき、充実した内容となりました。



オンデマンド配信



これからも油断できない日々は続くと思います。石川県看護協会や他の医療系・看護系大学などと協力しながら、地域社会に貢献できる活動を続けていきたいと思っています。また、直近での対策だけではなく、将来に向けて研究ベースにのせていくことも必要です。看護キャリア支援センターでは令和2年度に続いて令和3年度も感染管理認定看護師教育課程を実施します。これも本学が果たすべき役割のひとつと捉えています。

国際貢献

JICA日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」

平成19年から毎年継続的に実施しているJICA日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」は、今年度はコロナ禍にあり、パラグアイ共和国から予定されていた研修生の来日ができませんでした。そこでJICA北陸、共同で実施している羽咋市社会福祉協議会と相談し、初めての遠隔研修を行うこととしました。遠隔研修では、これまでに日系研修に参加された修了生を含め、8名が3つの移住地から参加してくださいました。現地との時差は12時間、両者が無理なく参加できる時間は限られています。令和3年1月12日(火)の夜8時に開講式を行い、1月29日(金)の朝8時に成果発表と閉講式を行いました。この研修は高齢化が進む南米の日系人へのケアの方法を、日本のサービスや施設の取り組みを紹介しながら学んでいただくもので、今回は2回にわけて事前に準備した動画を視聴いただき、質疑応答、解説する形で進めました。事前の準備で苦勞するはありましたが、より多くの方に学んでいただくことができ、よい機会になったと思います。現地で対応できたおかげで、パラグアイの日本人連合会の会長さんや日本の駐パラグアイ大使にもセレモニーに参加いただくことができました。

パラグアイでは高齢者福祉を国に頼るのではなく、自分たちで何とかしたいという意識を強くもっていて、参加者は皆さん、ボランティアでケアを行っています。ボランティアの活動に関しては、こちらが学ぶこともありました。また、後日、パラグアイ日本人連合会創立50周年にあたるということで、感謝状と記念品をいただきました。今年度も引き続き夏にはオンラインでのJICA日系研修に取り組んでいきたいと考えています。



中道 淳子
地域ケア総合センター
国際貢献部会長
(老年看護学分野 准教授)





教授 平居 貴生
Takao Hirai

専門分野 薬理学、生化学

● PROFILE

京都府に生まれる。金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程(生命科学専攻)修了。愛知学院大学薬学部准教授などをへて、2020年から現職。博士(薬学)。薬理学会、骨代謝学会、時間生物学会、和漢医薬学会所属。

生体リズムを調節する機能性分子の探索

学生時代の卒業研究で研究室に配属された時に骨薬理学研究に触れ、生命現象を明らかにしていく面白さに魅了されてから、交感神経系による骨代謝制御に関する研究を中心にMouse Geneticsを用いた骨生物学に関わる研究を行ってきました。現在は「神経系による骨代謝制御」の研究をきっかけにして、生体リズムと生活習慣病や骨粗鬆症といった各種疾患を結びつける分子機構を明らかにすること、生体リズムを調節する機能性分子の探索とその作用機序の解明を目指して研究を行っています。

石川県立看護大学健康科学講座(薬理学・生化学)は、学部教育の看護専門領域「健康・疾病・障害の理解」分野において、「臨床薬理学」、「代謝と栄養」の講義などを担当しています。また当研究室では、「生体リズム」、「時計遺伝子」、「筋・骨の健康」をキーワードにして、

細胞生物学的手法及び分子生物学的手法を用いた基礎研究から疫学調査など幅広い領域を対象とした生活習慣病の新たな予防・改善法の研究・開発に取り組んでいます。学生自らが研究を計画し、研究を遂行する能力を身につけ、質の高い看護ケアに活かせるように教育・研究環境の充実に努めたいと思います。



イチオシ!

最近ハマっていることは、畑で野菜を育てることです。最近活躍の耕うん機です。



教授 米田 昌代
Masayo Yoneda

専門分野 母性・助産看護学

● PROFILE

石川県在住。金沢大学医療技術短期大学部看護学部卒業、助産学特別専攻修了。国立金沢病院(現金沢医療センター)にて9年間助産師として勤務。金沢大学大学院医学系研究科にて修士・博士号取得。開学より本学に着任し、現在に至る。

あかちゃんを亡くされた方へのグリーフケア(悲嘆へのケア)

私は助産師として働いていたときに流産や死産、生後まもない新生児期にあかちゃんを亡くされた方のケアが十分でできていなかった経験をきっかけに、大学ではそのケアを充実させたいという思いから、2003年から継続してグリーフケアに関する研究や活動に取り組んでいます。グリーフケアとは様々な喪失体験にうちひしがれる人々に寄り添い続けることによって、哀しみを抱えながらも、その人らしく生きられるように支援することです。研究としては北陸におけるあかちゃんを亡くされた方へのグリーフケアの実態を調査したり、社会全体で支えるシステム作りを考える研究を実施してきました。最近では、WEBを活用したグリーフケアの勉強会の効果や亡くされた方のグループのお話会運営について研究しています。研究をもとにした活動としては臨床の方々に対する年2回のペリネイタル・グリーフケア検討会の開催とあかちゃんを亡くされた当事者へのサポートです。前者は講師を招いて、グリーフケアに関する

情報提供、情報共有の場とし、実践に活用できるものを提供できるようにと企画しています。当事者へは直接相談にのることはもちろん、自助グループと連携し、運営のサポートを実施しています。今後は、より社会全体にグリーフケアを浸透できるように活動の範囲を拡大していけたらと考えています。



イチオシ!

趣味はテニスです。毎週日曜日早朝テニスを長年の仲間たちと楽しんでいます。テニスを長く楽しむためにコロナ禍に入って、オンラインフィットネスも始めました。

退職のごあいさつ 令和3年3月で本学を退職した教職員からコメントをいただきました。



多くの学びと豊かな体験を大切に

武山 雅志 教授 担当：人間科学領域（心理学）

本学での17年間、心理学をはじめ臨床心理学、社会福祉論、アカデミックリテラシー、卒業研究など多くの科目を担当させていただきました。身体だけではなく、こころのあり様にも心配りのできる対人援助職になってほしいと思い授業を行ってきたつもりですが、どの程度学生さんのこころに残っているのか些か心配ではあります。豊かな体験をする機会を学生さんに提供したいと始めた災害ボランティア・サークルふたばでの活動には、とても多くの思い出が詰まっています。1年生の時には自信なげな様子ですが、4年生になると見違えるほど余裕をもって動いている姿には、平成20年1月に亡くなった佐藤弘美先生と学部事務室で交わした「学生って、4年間で本当に成長するよね!」という会話を今でも思い出します。多くの学びと体験を大切にしていってほしいと思います。

思い出の1枚



宮城県亙理町住民の皆さんとは「ものづくり」を通じたコミュニケーションを自然な形で交流ができたのが印象的でした。これは平成30年3月のハーバリウムづくりの時の写真です。



定年退職を迎えて

西村 真実子 教授 担当：母性・小児看護学講座

私の専門は小児看護学で、子どもの成長・発達や子育て、病児へのケアを教育する分野です。特に、私は子育て支援や子ども虐待予防の研究や実践活動を行ってきました。1990年代後半頃から、核家族化や地域社会の交流の希薄化等によって母親一人の「孤育て」が多くなり、多くの母親が育児に不安や困難を抱え、不適切な対応や虐待に至る状況が社会問題として注目されました。親を指導したり罰するだけでは問題解決にはなりません。私たちは、なぜ親が我が子に不適切な対応をするのかのインタビュー調査や、関連要因の質問紙調査、「ペアレンティング・プログラム（親支援）」を行政や子育て支援者等と連携し実践し、その効果をみる研究等も継続的に行い、教育等にフィードバックしてきました。これらの経験や、この間に会った悩みをもつ母親たちを含めたさまざまな人たちとの繋がりはかけがえのないものになっています。これからも微力ながら支援に携わってまいります。

思い出の1枚



2008年に産後ケアや子育ての情報収集と視察等で、講座の研究メンバーと金川克子先生とで韓国の全北大学を訪問した時のものです。海外に出向かせていただいた経験は多く、どれも有意義で刺激的な時間で、一つひとつがとても思い出深いです。



看護大学にて定年退職を迎えて 西田 義明 事務局長

皆さんこんにちは、事務局長の西田です。と言っても、学生の皆さんとはあまり接点もなく、私のことをご存じない方も多くいらっしゃると思います（自治会や大学祭担当の役員の方々とは直接お話したこともあったのですが）。令和元年から2年間、石川県から看護大学に派遣され、大学運営のお手伝いをさせていただきました。これとい

たこともできず、心苦しく感じておりますが、コロナ禍といった状況下でのこれまでにない大学運営は手探りの面もありましたが、学長はじめ教職員の方々のご協力のもと今日を迎えることができました。皆さま方の今後の活躍をお祈り申し上げまして、退職にあたってのご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

地域ケア総合センター事業



わたしとみんなの未来を変えるSDGs

—ムーブメント、アクションをおこす—

持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目指して

寺井 梨恵子（基礎看護学講座 講師）

令和2年度よりSDGs（持続可能な開発目標）に関連した事業を開始しました。本事業の目的は、①学生と地域住民の交流を行いながらSDGsに取り組むこと、②ESD（持続可能な開発のための教育）を通して持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を行うことです。

第1回事業として、令和2年9月5日（土）に「SDGs入門編ワークショップ」をWEB会議システムZoomで開催しました。第2回事業は、令和3年2月23日（火）に「SDGs de 地方創生カードゲーム体験会」を大学内で開催しました。参加者は、「住民」または「行政職員」に分かれて、①それぞれの志を達成すること、②持続可能なまちを実現することを目的として、それぞれが考えて行動しました。刻一刻と変化するまちの状況（人口、経済、環境、暮らし）に一喜一憂しながら、また熱狂しながら、体験を通して多くの学びを得ました。今後は感染状況に配慮しながら、多くの学生や地域住民の方々に参加し、交流できるように定期的に開催する予定です。





EVENT

卒業式・学位授与式
学部80名が卒業、大学院9名が修了

令和2年度の卒業式・学位授与式を3月13日(土)に挙行了しました。看護学部生80名が卒業、大学院生9名(前期課程7名、後期課程2名)が修了しました。石垣学長は「人としての成長を続け、たくさんの感動を与えられる存在になってほしい」と激励しました。また、谷本正憲石川県知事からは「人の心の痛みを理解し、安心を与えることのできる専門職として羽ばたくことを期待する」との言葉をいただきました。稲村建男石川県議会議長からもあたたかい祝辞をいただきました。卒業生を代表して徳沢聖那さん、修了生を代表して千原裕香さんが、友人や教職員、家族に感謝を伝え、今後も努力を惜しまないと決意を述べました。新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者・家族の参列はかないませんでした。中継で観ていただきました。



学長表彰代表



学長表彰を受けた皆さん

学部卒業生の言葉

“やればできる”と感じた4年間

天池 菜摘さん



大学での4年間はとても充実した時間でした。実習では辛いこともありましたが仲間と共に乗り越えながら、自分の看護観を深めることができました。アメリカ看護研修では現地の病院で日本とは異なる医療について学んだだけでなく、交流を通して文化や人柄も感じることができました。4年時は新型コロナウイルス感染症の流行により通常とは異なる1年でしたが、だからこそ相談にのってくれた先生方、一番身近な存在で切磋琢磨した友達への感謝の思いは一段と大きいです。4月からは新たなステージにたちますが、大学で学んだことを生かし、尊敬する母のような患者さんから信頼される看護師になれるよう頑張りたいです。

大学院修了生の言葉

臨床の疑問に挑む力が身についた

加藤 泰子さん

博士課程修了にたどり着くまでの苦悩の日々の中で、臨床の疑問に勇んで挑戦する力を身につけることができました。そして、研究とはいかに丁寧に慎重に辛抱強く取り組むことが大事かを教わりました。これからは、恩師が示して下さいデータに向き合う厳しい姿勢と研究者としての情熱を心に、石川県立看護大学の名に恥じない研究者として精進して参ります。特にこの1年の研究活動が厳しく制約される状況においても、最大限のご尽力を下さいました先生方、職員の皆様にご心より感謝申し上げます。最後まで諦めずに取り組むことができました。

EVENT

第22回 石川県立看護大学 入学式 コロナ禍をのりこえて 一看護学部80名、大学院14名が入学

早咲きの桜が満開となった4月6日(火)、第22回入学式を講堂にて挙行し、学部生80名、大学院生14名が入学を許可されました。感染対策として新入生のみの参列とし、式の様子はインターネットでLIVE配信しました。石垣和子学長は式辞にて、「自分は分かっていない」ことが分かる賢い人でこそ、相手の身になり多様性を認め自分も豊かになると、コ

ロナ禍で分断されがちな社会における心構えを訓示しました。また院生には、それぞれが高い専門性をもった知識と技術を修得することへの期待を述べました。大学入試改革やコロナ禍といった荒波をのりこえ無事入学した新入生のサポートに、教職員一同全力で取り組んでいきたいと思いを。



TOPICS

学生ブログ「IPNU Club」を 発信しています！

2021年に入ってから学生ブログを開設しました。学生広報委員を中心にリレー形式で担当学生がブログを更新しています。講義等での学びや友人と過ごす時間など日頃の学生生活の様子や、大学行事などを写真とともに伝えていきます。本学ホームページからも閲覧することができます。ぜひご覧ください。



学生ブログ「IPNU Club」は
こちらから！

附属施設 INFORMATION

附属図書館

2階閲覧スペースの改装

昨年度のがんばルームの改装に続いて今年度は2階の閲覧スペースの改装を行いました。ゆったり座れるソファと、離れたりくっついたりして様々な使い方ができるちょっと変わった形のテーブルが入りました。ぜひ一度見に来てください。感染対策で同時入館者数の制限は継続していますが、一度に集中しない限り本学学生の図書館利用は可能です。ルールを守ったうえで図書館の積極的活用をお願いします。



地域ケア総合センター

リモートを利用した研修の開催

昨年度は、COVID-19の感染拡大の影響で、予定していた25事業のうち、7事業を中止しました。しかし、オンラインを駆使し18事業を実施しました。人材育成事業は7事業、地域連携・貢献事業は10事業、国際貢献事業は1事業を開催しました。能登北部の看護職を対象にした在宅療養移行支援事業も公立穴水総合病院と市立輪島病院から事例提供をしていただき、会場とオンラインで事例検討会を実施することで、大きな効果を得ることができました。



看護キャリア支援センター

感染管理認定看護師教育課程「修了式」

2021年2月10日(水)、令和2年度「感染管理認定看護師教育課程」の修了式を行い、本学附属看護キャリア支援センター感染管理認定看護師教育課程の第4期生32名が、約7カ月にわたる教育課程を終えることができました。今年はコロナ禍の影響で、感染管理認定看護師の活躍に関心が高まっており、修了生たちへの期待も同様と考えられます。修了生は、今後自施設に戻り感染管理活動に取り組みながら、秋には日本看護協会が行う認定審査に挑みます。



国家試験の合格状況 令和2年度看護師・保健師国家試験合格状況（第18期生の状況）

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国(新卒のみ)
看護師	80名	80名	80名	100.0%	95.4%
保健師	80名	80名	77名	96.3%	97.4%

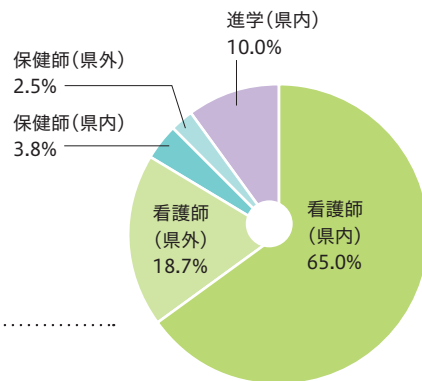
卒業生の進路状況 令和3年3月31日現在の就職・進学状況は次のとおりです。

〈県内就職内定・進学先〉

看護師 石川県立中央病院、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、
公立松任石川中央病院、金沢医療センター、公立宇出津総合病院、
珠洲市総合病院、芳珠記念病院、JCHO金沢病院 他

保健師 石川県、金沢市、かほく市

進学 石川県立看護大学大学院、金沢大学養護教諭特別別科



〈県外就職内定・進学先〉

看護師 福井県立病院、富山西総合病院、金沢医科大学氷見市民病院、市立砺波総合病院、
信州大学医学部附属病院、JA愛知厚生連豊田厚生病院、立川総合病院、JCHO大和郡山病院、
京都桂病院、上尾中央総合病院 他

保健師 富山県

令和3年度 キャンパススケジュール 令和3年度キャンパススケジュールについては下記のとおりです。

前期	夏のオープンキャンパス	7月10日(土)～8月1日(日)
	※オンライン	
	補講・試験	7月30日(金)～8月6日(金)
	夏期休業	8月10日(火)～9月30日(木)
後期	授業開始	10月1日(金)
	大学祭(看大祭)	10月23日(土)、24日(日)

後期	秋のオープンキャンパス	10月23日(土)
	冬期休業	12月20日(月)～1月3日(月)
	補講・試験	2月14日(月)～22日(火)
	春期休業	2月24日(木)～
	卒業式・学位授与式	3月19日(土)



石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

